

センターだより

Vol. 91

発行 令和元年8月



ベットへの移乗動作訓練

目次

- 就任のごあいさつ 1
- 第14回大分県障がい者スポーツ大会 2
- 第14回大分オープンボッチャ選手権大会 //
- 蛍の交歓会 3
- 所内スポーツ大会 //
- 特殊機械浴について 4
- PT（理学療法）訓練について 5
- OT（作業療法）訓練について 6
- 給食業務のご紹介 - 選択メニューについて - 7
- 終了者の声 8
- 終了者の状況、職員異動、利用者募集のご案内 裏表紙





就任のごあいさつ

所長 工藤 裕司

本年4月1日付で、埼玉県所沢市の国立障害者リハビリテーションセンター（所沢センター）から赴任して参りました。どうぞ、よろしくお願いいたします。

別府センター勤務は、5年ぶり2回目となります。前はサービス管理責任者として利用者の皆様の支援計画の作成やサービスの充実に努めておりましたが、今度は施設管理者として施設運営全般に係わることになりました。5年前と変わらず、私も職員の思いはただひとつ、それは「利用者の皆様が1日も早くそれぞれの目標を達成できること」に尽きます。しかし、頸髄損傷者の方々に対して、専門的な知見を持って充実した機能訓練を提供できる施設は、日本では極めて少ないという残念な状況もまた変わっていません。

この間、平成28年7月に、兄弟施設だった静岡県伊東市伊東重度障害者センターが63年の歴史に幕を閉じ、その機能は所沢センターに新設された第二自立訓練部に統合されました。いま、国立施設で頸髄損傷者の機能訓練を実施しているのは、別府センターと所沢センターの2ヶ所だけとなってしまいました。私自身は、伊東センターの廃止と第二自立訓練部の設立のいずれにも係わりましたが、こうした激動の施設再編に奔走しながら久しぶりに別府センターに戻ってくると、規模は小さいながらも67年に亘る安定した施設運営にホッとする思いがしました。やっぱり別府センターはいいな、それが私の率直な感想です。

しかし、別府センターにおいても令和の時代を迎え、求められる役割も少しずつ変化してきています。いま、別府センターでは、これまでのように理学療法、作業療法、スポーツ訓練、職能訓練といった自立訓練（機能訓練）だけではなく、頸髄損傷などの重度の身体障害を有する方を対象とした就労支援サービスを提供するための新規事業を模索しています。これまでは、自宅で家族と生活できるようになることだけで精一杯だった方がたくさんおられましたが、中には通勤は無理でも在宅就労などの形で再び仕事に就きたいと願っていた方も少なくありませんでした。そうした障害の重さ故に働くことを諦めざるを得なかった方に対しても、新たに就労移行支援サービスを提供できることを目指しているのです。その結果は、また近いうちにご報告ができますよう、いっそうの努力をして参ります。

最後になりますが、少しでも自己紹介をさせていただきます。出身は札幌市で、生まれも育ちも北海道の道産子です。函館視力障害センターが初任地ですが、その後、所沢センターや厚労省を始め、神戸センターや伊東センターにも勤務させていただきました。50歳を過ぎてから始めたウォーキングがきっかけで、最近は行く先々の山の中を歩き回るトレッキングが趣味となっています。また、別府名物の温泉の外湯巡りも大切な日課のひとつです。

終了者やご家族の皆様、地域の皆様、これからも当センターを末永く見守っていただけますよう、何とぞよろしくお願い申し上げます。

第14回大分県障がい者スポーツ大会

医務課 運動療法士長 木畑 聡

国内で障害者スポーツ発祥の地のひとつとされる大分県。障害者スポーツ大会も盛んで、ボッチャ・ツインバスケットボール・卓球バレー・車いすマラソン等多くの大会が開催されており、センター利用者も参加しています。この大分県障がい者スポーツ大会も、毎年多くの利用者が参加している大会のひとつです。令和になって最初の今大会には、センターからはアーチェリー競技（5月18日（土）別府市）と陸上競技（6月2日（日）大分市）にのべ12名の利用者が参加しました。大会前にはセレクトティブワークの時間を活用してルール of 把握と技術練習を各自のペースで取り組み、大会に臨みました。自己ベスト記録を出した方や思い通りに力を出せなかった方等結果はさまざまでしたが、大会というほど良い緊張感の中で知らない方と競い合うなど、普段とは違う経験もできたのではないのでしょうか。3位以内に入賞すると金・銀・銅のメダルをもらえます。利用者の中には2種目金メダルの方もいました。ある40代の男性利用者の「この歳になってメダルをもらえるのはうれしい」との言葉、私も共感です。



アーチェリー競技



陸上競技スタート前

第14回大分オープンボッチャ選手権大会

支援課 生活支援専門職 水本 達也

3月10日（日）に、別府市の太陽の家サンスポーツセンターで「第14回大分オープンボッチャ選手権大会」が開催されました。当センターからは、「チャレンジの部」の団体戦にボッチャクラブの9名の利用者が3チームに分かれて参加しました。

当日は全6チームが2リーグでの対戦となったため、センターのチーム同士が試合をする機会もあり、皆さん真剣に勝負していました。

順位は6チーム中、3位、4位、5位という結果でした。3月の気温の低い中、練習の成果を十分に発揮できない場面もありましたが、皆が互いにカバーし合い、健闘することができました。半数の方がセンター生活終了間近での参加でしたが、良い思い出になったと思います。



狙いを定めて…それっ！

蛍の交歓会

支援課 主任生活支援専門職 中山 修司

6月7日（金）、今年で54回目を数える蛍の交歓会が行われ、竹田市立南部小学校の6年生32名ほか学校関係者の皆様が来所し、利用者・職員との交流を楽しみました。

贈呈式では、蛍とともに花束や児童が作ったプレゼントが6年生から当センター利用者に手渡され、さらに歌とリコーダー演奏が披露されました。利用者の代表が「蛍と学ぶという字はよく似ている。我々も毎日このセンターで学んでおり、皆さんも毎日学校で学ばれていることと思う。同じ学ぶもの同士が蛍を介して交流すること感慨深く思う」と挨拶されました。

午後の体験学習では、車椅子を使ったスポーツ体験、利用者が訓練で行っている手織りやトールペイント、キーホルダー作りなどを利用者と一緒にいき、楽しい時間を過ごしました。

賑やかな子どもたちが帰り、いつもより静かに感じられたこの日の夜、集会室に蚊帳を張り、中に蛍を放って、多くの利用者と観賞しました。多くの方が実に穏やかな心持ちで蛍を眺めていました。



蛍や花束を受け取りました



車椅子の乗り方を学びました



上手に織れるかな？

所内スポーツ大会

支援課 生活支援員 齊藤 ひかり

例年より遅い梅雨で雨が続く中、晴れ間が見えた7月4日（木）、第24回所内スポーツ大会が開催されました。利用者と職員が赤白2チームに分かれ、6種類の競技で優勝を競い合いました。

開会式では、赤組キャプテン大藏さんと白組キャプテン小川さんが息の合った選手宣誓。パン食い競争や競技の観戦では青山保育所の園児も参加し、にぎやかな雰囲気になりました。その他の競技では、ゴロ



選手宣誓

んけんサッカーで盛り上がり、ねらってピンボールで息をのむ場面があったりと見応えのある内容でした。また、一部の競技では利用者が実況を行い、利用者・職員共に好評でした。

激闘の結果は、4年ぶりに白組が優勝。利用者と職員が皆で体を動かし、気持ちの良い一日となりました。



白熱のゴロサッカー

特殊機械浴について

特殊機械浴とは…

医務課 主任介護福祉士 曾川 史恵

歩行や座位が困難な方が、座ったまま、または寝たまま入浴できる浴槽のことです。

当センターでは、車いすを使用し、かつ座位姿勢が安定しない方が大半であるため、以下に紹介する「昇降式介護浴槽」を使用しています。これは、専用のストレッチャーと担架で浴槽に連結し、寝たままの姿勢で入浴するタイプの介護浴槽です。これまでは「昇降式介護浴槽」1台と他の機械浴を使用していましたが、先日「昇降式介護浴槽」をもう1台導入しました。

天井に設置している
リフターを使用しストレッチャーへ
移乗します

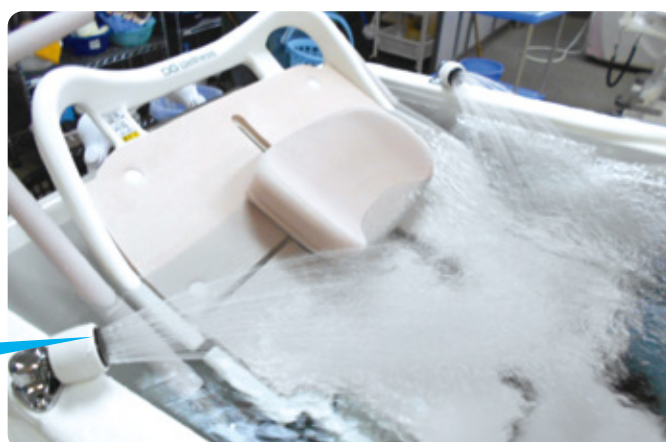


「昇降式介護浴槽」では、浴槽を利用者それぞれの体型に合わせて高さ調整できるため、体の大きな方でも十分湯船に浸かることができます。また、浴槽に設置されているシャワーは、肩から下の感覚が麻痺している利用者にとって、温度を感じやすい肩周りを温められるため、寒い時期は特に効果的です。



利用者の体型に合わせて
浴槽の高さを調整

シャワーが、首・肩に
直接当たって温められる



入浴は、利用者の方にとって心身共にリラックスされることはもちろん、普段痙攣性や硬縮してしまった身体をほぐす効果もあります。このため、限られた入浴の時間をできるだけ気持ちよく快適に過ごしていただけるよう心がけています。

PT（理学療法）訓練について

医務課 理学療法士 松浦 幸三

理学療法部門は、身体能力の維持・向上と障害因子の改善、基本動作・応用動作の獲得を目標に、4名の理学療法士が機能訓練を提供しています。

訓練室の中央には10畳ほどの訓練用マットを配置し、ADLの獲得を目標に、移乗動作や寝返り・起き上がりなど基本動作の訓練を行います。このマットを取り囲むように、車椅子のまま訓練が可能なトレーニング機器を配置しています。また、重度の障害を有する方でも利用できるように工夫した機器や、不全損傷の方に対する立ち上がり・歩行訓練機器も取り揃えています。



PT全景



トレーニング機器

理学療法部門は、自動車関連動作訓練も行っています。理学療法室内には運転シミュレータを設置しており、ハンドル旋回や手動アクセルブレーキ操作、運転体験等の訓練を行います。併せて、訓練用車両への移乗訓練や、車椅子の積載訓練も行います。この改造車両には、オートボックスという車椅子収納装置を搭載しており、自力で車椅子の積載が困難な方や電動車椅子の方でも、運転席に座ったまま、電動で車椅子の積載が可能です。



運転シミュレータ



訓練用車両・オートボックス

今後も頸髄損傷の方に対して、よりよい訓練を提供できるよう、スタッフの知識・技術の向上を図るとともに、訓練方法の検討や訓練機器の整備を行っていきます。

OT（作業療法）訓練について

医務課 主任作業療法士 阿南 誠二

作業療法では、ADLの獲得や習熟を目的とした訓練を行っています。主な内容としては、食事・整容・更衣・排泄・入浴等の生活動作訓練や家事訓練等の生活関連動作訓練があります。動作訓練に加えて、個人の状況に合わせた自助具の作製や環境整備を行うことも作業療法の主軸のひとつになります。このため、新しい支援機器の開発や訓練方法の工夫なども、利用者のニーズの変化に合わせて行っています。



食事支援ロボットでの動作訓練



ベッド上での更衣動作訓練



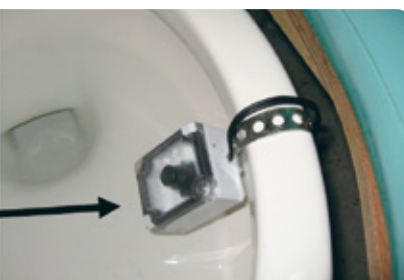
高床式浴室



高床式トイレ



排泄支援カメラ装置



座薬挿入器



トランスファーボード(OT作製)を使用した移乗動作訓練



獲得したADLを社会復帰後の生活に活かすため、環境整備相談（住宅・学校・職場など）も支援しています。

給食業務のご紹介 - 選択メニューについて -

庶務課 栄養係長 松岡 里佳

当センターの給食では、月・水・金曜日の昼食は選択食を実施しています。選択食では、栄養士が毎回献立を作成しているA献立（通常メニュー）と利用者に人気の高いB献立「定番メニュー」のどちらかを選択することができます。

選択食の導入は、平成16年3月にさかのぼります。初めは月1回の昼食にて実施していましたが、平成18年5月からは週2回、火曜日と木曜日の昼食に拡大しました。火曜日は、B献立のメニューが毎回違うものでしたが、木曜日のB献立は毎週「ビーフカレー」を提供していました。これが「定番メニュー」の始まりです。その年の11月からは、現在の週3回の選択食方式となり、B献立を「定番メニュー」として定着を図りました。最初は「ビーフカレー」「ラーメン」「えびと貝柱のフライ」「五目チャーハン」「月見うどん」「ハンバーグとたらのフライ」の6種類を月・水・金曜日の昼食に順番に提供していました。毎回変わるA献立（通常メニュー）との選択制となっており、「定番メニュー」を食べられるのは先着20名までとしていました。しかし体調不良等でなかなか食堂では食事ができず、居室で食事をする利用者が利用できないため、栄養士が居室へ献立を持って利用者の希望を伺うようにしたところ、「自分にも希望を聞いてほしい」との要望が多数ありました。現在は申し込み順での方法をやめ、事前に利用者全員の希望を伺って、選択していただいています。その試みが良かったのか、選択食のある昼食は、ありがたいことに毎回ほぼ100%の喫食率となっています。

「定番メニュー」は、3ヶ月ごとに1～2種類、その時々利用者の希望に合わせて変更しており、これまでに「オムライス」「肉うどん」「月見うどん」「天ぷら」「豚カツ」「和風ハンバーグ」「たいとまぐろのおさしみ（冬のみ）」などを提供してきました。現在は、月曜日は「中華丼」または「鶏からあげ」、水曜日は「冷やしうどん」または「ラーメン」を、金曜日は「ビーフカレー」または「親子丼」を提供しています。

利用者に満足していただくため、これからも年齢、嗜好、希望等を考慮しながら、きめ細かなサービス提供をしていきたいと考えています。

「定番メニュー」を開始した当時の写真がいくつか残っていましたので、ご紹介します。（3枚とも平成18年12月に撮影。撮影用にランチョンマットを敷いていますが、実際にはトレーに乗せて提供しています。）

月見うどんといなり寿司



ビーフカレーとポテトサラダ

えびと貝柱のフライと卵スープ



終了者の声

平成30年8月終了 緒方 大士

センターのみなさんこんにちは。蒸し暑い日々が続いていますが、いかがお過ごしでしょうか。僕は去年の8月まで別府重度障害者センターを利用していました。レベルはC6B1程度です。センターを退所後は大学に復学し、福岡の方で兄妹と一緒に生活しています。

兄妹と住んでいるといっても介護してもらうには負担をかけ過ぎてしまうので、ヘルパーさんと訪問看護を利用しながらの生活です。

現在、家は賃貸マンションなのでがっつりとした改修はできないので、玄関部分に簡易的なスロープとお風呂は高床式の台を設置して自分でも入れるようにしてあります。トイレはシャワーチェアを利用して週に2回入っています。

大学への通学は基本的に家族に送り迎えをしてもらっていますが、たまにリハビリも兼ねて自走と地下鉄を利用して通ったりもしています。僕は医療系の学部に通っていますが、そのおかげか大学内ではけっこう周りの同級生が積極的に手伝いをしてくれたり、気にかけてくれていて、周りの環境にすごく助けられています。今は卒論の作成を中心に行っていますが、センターで職能の時間にWordやExcelを一通り学んでいたことがすごく役に立っていて、作業がスムーズに行えています。

センターでの生活は約1年9ヶ月間でしたが、自分にとってプラスになったことばかりでした。入所以前は1人で車椅子とベッドの移乗さえ出来ていなかったのですが、PT、OTの先生方と日々リハビリするにつれて、いろいろな動作が出来るようになりました。時には思うようにいかず、悔しくて泣きたい時もありましたが、それでも何か1つでも自立して出来るようになった時はそれ以上の喜びがありました。そのおかげで様々な新しいことにチャレンジする楽しさも知ることができました。欲を言えば、車の運転まで出来るようになりたかったですね。出来るならもう一度入所したいと思えるくらいです(笑)。

また、センターではたくさんの出会いがありました。自分と同じような障害を抱えている10代から60代まで幅広い世代の人と一緒に生活することはとてもいい社会勉強にもなりましたし、そこで出来た友達はかけがえのない存在です。

さらに、自分にとって最も大きなことは、復学支援に関してとても熱心に取り組んでもらえたことです。正直言うと、最初の頃は復学出来るなんて思ってもいませんでした。担当の支援課、PT、OTの先生方が、何度も一緒に大学まで足を運んでくださり、改善案や医療用の器具を扱うための自助具まで作製してもらうなどして無事に復学することができました。本当に感謝ばかりです。

最後に現役生のみなさん、あまり大きなことを言える立場ではありませんが、センターにいるうちにやれるだけのことをやっておくといいと思います。失敗してもすぐさま対応してもらえるのはセンターにいる間だけだと思うのでいろんなことにチャレンジすることをお勧めします。

では皆さん、お体には十分気をつけながら訓練頑張ってください。



「長崎旅行にて」左側が緒方さん、右側が平田さん
(当センター終了者)

終了者の状況

(平成31年1月1日～令和元年6月30日)

復帰形態	家庭復帰	就職	自営・内職	現職復帰	就労支援施設・能開校	他施設	病院	進学	その他	計
人数	2	1	1	5	0	2	0	0	0	11
比率(%)	18.2	9.1	9.1	45.4	0	18.2	0	0	0	100.0

職員異動

平成31年3月31日付

○ 任期满了 医務課理学療法士 森田 有紀

平成31年4月1日付

○ 転入 所長 工藤 裕司 (国立障害者リハビリテーションセンターより)

○ 転出 所長 三好 尉史 (国立障害者リハビリテーションセンターへ)

○ 復職 医務課理学療法士 河野 和美

利用者募集のご案内

当センターが提供する障害福祉サービス

サービス名	サービス内容	利用期間
自立訓練 (機能訓練)	理学療法、作業療法、 スポーツ訓練、職能訓練等	利用開始後の評価に基づき作成した個別 支援計画書に定めた期間となります。
施設入所支援	自宅から通所が困難な方 は、看護・介護等の支援を受 けながら宿舎の利用が可能 です	自立訓練の利用期間に準じて設定

ホームページにはさらに詳しい情報を掲載しておりますのでぜひご覧下さい。

別府重度

検索

<http://www.rehab.go.jp/beppu/>

お問い合わせ先

国立障害者リハビリテーションセンター 自立支援局

別府重度障害者センター 支援課

住所 〒874-0904 大分県別府市南莊園町2組

電話 0977-21-0182(利用相談) FAX 0977-21-2794

E-mail soudan-beppu@mhlw.go.jp

頭髄損傷者の自立訓練(機能訓練)については下記の国立障害者リハビリテーションセンターの利用も可能です。

国立障害者リハビリテーションセンター

所在地 〒359-8555 埼玉県所沢市並木4丁目1番地

電話 04-2995-3100(代) FAX 04-2992-4525(直通)

国リハ

検索

<http://www.rehab.go.jp/>